事例No.	1294
公表年度	R1
団体の属性	一般市
団体名	栃木県鹿沼市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・観光

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

まちの駅姉妹締結・いちご市民プロジェクト

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

1.地域概要・地域課題・事業に取り組む背景

地域の概要

地域名：栃木県鹿沼市
人　口：９５,６６２人

- 北関東にある宇都宮市、日光市に隣接するまち。
- 市域の約７割を占める森林の恩恵を受け、林業や木工業が栄えているほか、いちごやそばなどの農業、鹿沼土やさつき盆栽などの産業も盛ん。
- 荘厳な彫刻屋台がまちを練り歩く「鹿沼秋祭り」はユネスコ無形文化遺産にも登録されている。
- 市内には、まちの情報交流拠点である「まちの駅」が110駅あり、地域活動をする上で重要な役割を担っている。
- 平成２８年１１月「いちご市」宣言を行う。いちごは本市を代表する農産物で、「市の果実」に制定されており、シティプロモーションのメインイメージとしている。



鹿沼秋まつり。木工技術の象徴である彫刻屋台。祭りの中心となる今宮神社の氏子町で２７台の彫刻屋台が存在する。



市街地から少し足を伸ばすと、清流の流れる豊かな農山村が広がっている。

解決したい地域課題

- 人口が５年間で約4,000人減少している。
- さらに、団体などで地域づくりを担っていた層が高齢化し、地域づくりの担い手が不足。

本事業に取り組むに至った背景

- 人口減少という大きな問題に対し、「関係人口」として本市の強いファンとなる地域外の住民の創出・拡大に試みることとした。
- 本市の強みである、市民主体のまちづくりの象徴「まちの駅」、そして地域外の住民に直接「かぬま」の情報を届ける「かぬまファン」のシステムを活かし事業を企画。

「まちの駅」　…官民問わず既存の施設でトイレの貸出・観光案内をメインとする活動。全国に約1,600の駅がある。

「かぬまファン」…平成20年から開始。市外在住で、鹿沼に関心のある方に直接情報提供するサービス。メールの「かぬマニアメール」、紙媒体の「かぬマニア通信」がある。

2. 事業概要

●事業概要

①姉妹まちの駅プロジェクト

＜ターゲット＞
- 東京都荒川区・福島県会津地域・静岡県焼津市のまちの駅関係者 ➡ 各地域の住民

＜概要＞
- まちの駅ネットワーク間で姉妹締結。民間による交流事業の推進。

＜実施事項＞
- 姉妹締結式、鹿沼市のまちの駅・観光資源巡り、ワークショップ

②いちご市民プロジェクト

＜ターゲット＞
- 鹿沼ファンの皆さん

＜概要＞
- 鹿沼ファンに「いちご市民」になっていただき、市内での行事や課題解決などに積極的、継続的に取り組んでいただく。

＜実施事項＞
- いちご市民カード交付式、視察ツアー、ワークショップ

●地域の理想の姿

- 市内の110の「まちの駅」が他地域との連携の中で、自発的に活動を行う、というのが理想の姿である。
- 鹿沼ファンに関係人口「いちご市民」になっていただき、本市の課題解決に向けて「いちご市民」の方々に活躍していただけるような受け入れ体制を整えたい。

●理想を実現するための本年度事業の位置づけ

- 市町村単位で組織化されているまちの駅ネットワーク同士を姉妹締結によって「見える化」し、「関係人口」創出へ向けた仕組みの構築。
- 関係人口としての「いちご市民」制度の試行とスタートアップ。関心人口「鹿沼ファン」を関係人口に。

●本年度の目標

- まちの駅ネットワーク間姉妹締結 2件
- 個々のまちの駅間姉妹締結 100件
- かぬまニア（鹿沼ファン）新規登録者500名
- いちご市民登録者 100名
- いちご市特任大使任命数 10名

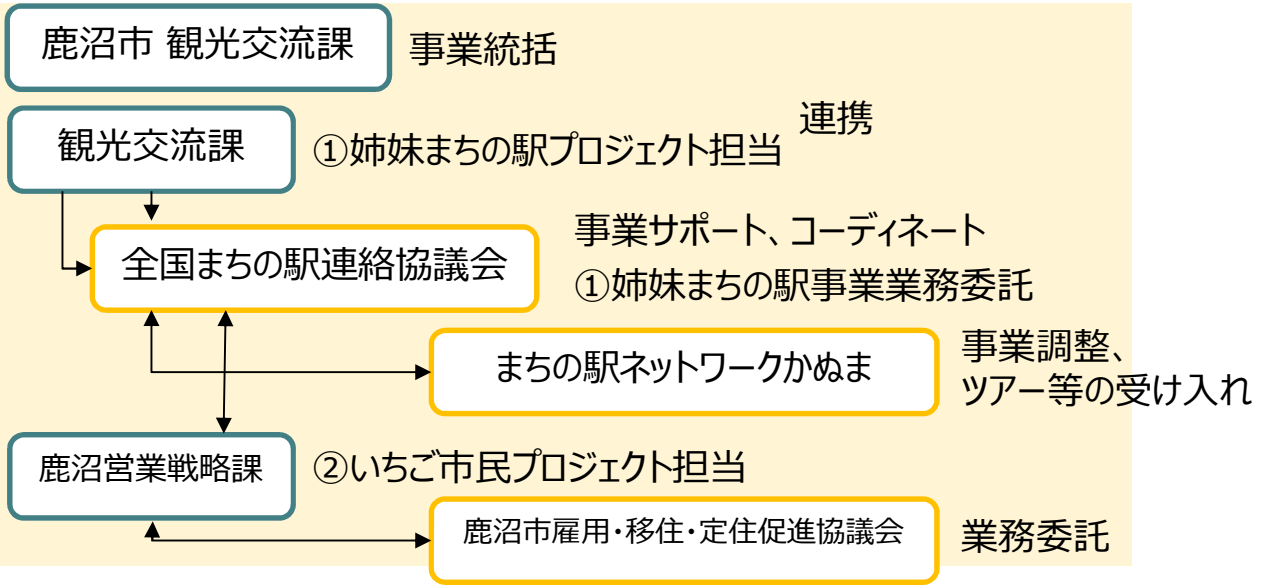


交付した「いちご市民カード」

3.事業実施体制・スケジュール

事業実施体制（受け入れ体制を含む）

- 観光交流課が主体となり事業を統括・推進する。
- 「姉妹まちの駅プロジェクト」は観光交流課が、「いちご市民プロジェクト」は営業戦略課が中心となって実施する。
- 全国まちの駅連絡協議会及びまちの駅ネットワークかぬまが、事業全体のサポートやツアー等の受け入れを行う。
- 「いちご市民プロジェクト」については、鹿沼市雇用・移住・定住促進協議会が業務を受託し実施する。



スケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2・3月
事業全体				補正予算計上					事業取りまとめ報告書の作成	次年度以降の展開を検討
姉妹まちの駅プロジェクト	「まちの駅ネットワークかぬま総会」において事業説明を実施（13日）			焼津市において打合せおよび視察の実施（29日、30日）	姉妹提携を行う各まちの駅ネットワークに参加者募集を呼びかけ	「まちの駅全国大会in焼津」にて姉妹提携事業のプレスリリース	まちの駅ネットワーク姉妹締結 & 鹿沼まちの駅・観光資源巡りの実施	・各団体の会議等で事業の報告 ・専用ポータルサイトの制作	まちの駅ツアーの内容を反映したマップの作成　及び　専用ポータルサイトのリリース	・具体的な連携事業について検討 ・互いに関係人口となり、ポータルサイト等を通じて姉妹まちの駅ネットワークのPR
いちご市民プロジェクト						「いちご市民」のプレスリリース		災害対応で準備・開始が遅延し、１２月に実施	いちご市民視察ツアー＆地域資源活用ワークショップの実施（１９日）	いちご市民の継続募集といちご市民に関わっていただける事業等のリストアップ

4.事業の「ターゲット」

●事業のターゲット

● **姉妹まちの駅プロジェクト**

都市圏へのアクセスの良さを活かした関係人口づくりから、東京のまちの駅関係者及びその地域の住民

➡東京都荒川区のまちの駅ネットワークと姉妹締結。

➡さらに、効果的な事業の推進を狙い、静岡県焼津・福島県会津地域のまちの駅ネットワークも巻き込み実施。

● **いちご市民プロジェクト**

約1,000名登録いただいている「鹿沼ファン」の皆さんのうち、今年度は紙媒体で情報提供を行なっている405名。

●参加者募集のターゲットの設定経緯

姉妹まちの駅プロジェクト

- あらかわ区まちの駅ネットワーク
  東武線、「おくのほそ道」、都市部とのつながり
- まちの駅ネットワーク焼津
  海のまちと内陸のまちの交流連携（物産交流等）
- 会津まちの駅ネットワーク
  東武線-会津鉄道の観光連携のつながり

いちご市民プロジェクト

- 鹿沼ファン
  既に「関心人口」として登録のある「かぬまファン」のシステムを効率的に活用し、ここからさらに熱心なファンを「関係人口」として抽出

●ターゲットへの広報・アプローチ

【実施事項】

①姉妹まちの駅プロジェクト

- 毎年全国のまちの駅関係者が一堂に介す「まちの駅全国大会」にて、約３００名の関係者に事業と制度のプレゼン・プレスリリース。
- 「全国まちの駅連絡協議会」というまちの駅の上部組織である組織基盤を活用した周知及び、ターゲットとなる地域に対する直接営業を実施。

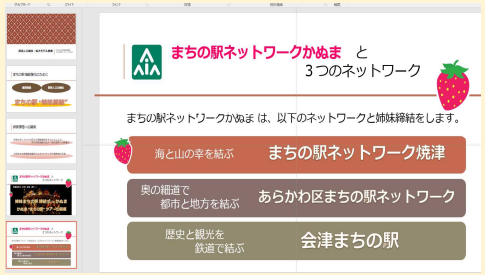
②いちご市民プロジェクト

- 鹿沼ファンにダイレクトメールを郵送

【成果・効果】

- 全国の関係者を前に、直接プレスリリースを行ったことで、複数のまちの駅関係者から事業の問合せあり。
- 他のまちの駅同士で同様の取組を行う計画も伺っている。
- 「全国まちの駅連絡協議会」の組織力を活用した効率的なアプローチ、そして直接事業に対する想いを伝えることができた。





5.関係人口の活動内容

●参加者（関係人口）が取り組んだ活動の内容

【姉妹まちの駅プロジェクト】
まちの駅姉妹締結式及びまちの駅視察ツアー

- 開催日：11月18日～19日
- 参加者：焼津4名、荒川5名、会津5名、全国まちの駅連絡協議会4名、鹿沼20名　合計38名

11月18日（月）	
13:00~	視察（花木センター、中央公園など）
16:30~	ワークショップ
18:00~	姉妹まちの駅締結式
18:30~	交流懇親会
11月19日（火）	
8:30~	視察（伝統工芸館、古峯神社など）
13:30	解散

- 参加者の全てがまた鹿沼に訪れて、もしくは情報発信などで今後も鹿沼に関わりたいと回答した。
- まちの駅連携による具体的な展開について、ワークショップや懇親会の場で積極的な意見交換が行われた。

【いちご市民プロジェクト】
いちご市民カード交付式及び鹿沼まちなか体験ツアー

- 開催日：1月19日（日）
- 参加者：東京都4名、神奈川県4名、千葉県1名、海外1名　合計10名

10:00~	オリエンテーション
10:30~	屋台のまち中央公園視察
12:00~	昼食、まちなか散策
13:30~	まちなか循環バスにて移動
14:00~	花木センターでいちご狩り体験
15:30~	いちご市民カード交付式
15:45~	ワークショップ
16:30	解散

- ツアー自体の満足度は概ね高く、多くの参加者が今後も鹿沼に関わっても良いと回答した。
- ワークショップでは、鹿沼の活性化などについて具体的な意見交換が活発に行われた。





◀ツアー・調印式

いちご市民カード▶





6.活動の成果

●本年度の目標達成状況

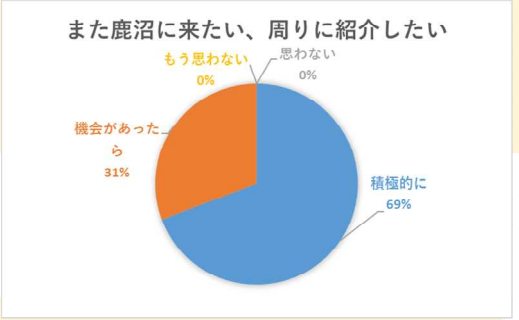
- まちの駅ネットワーク間での姉妹締結 **3件**（2件）
- 個々のまちの駅間の姉妹締結 **112件**（100件）
- 鹿沼ファン新規登録者 **323名**（500名）
- いちご市民 **8名**（100名）

✓ 姉妹まちの駅プロジェクトでは概ね目標を達成することができた。
✓ いちご市民プロジェクトについては、台風19号の被災の影響で、事業開始や準備が大幅に遅れ、予定通りの実施が困難であった。数の確保はできなかったが、「いちご市民」という制度の確立をし、スモールスタートであるが県外に住む本市の強いファンの獲得ができた。

●関係人口の地域との関わり方

【姉妹まちの駅プロジェクト】
- SNSや地元紙等で、相互に情報発信をしたり、本市では主要施設で３地域の展示コーナーを設けPRしている。
- 情報提供や物産交流、イベント交流などの展開を考えている。

【いちご市民プロジェクト】
- 台風被害の影響で多くの関係人口を獲得することができなかったが、「いちご市民」の皆さんには鹿沼に対して良い印象を持っていただき、今後も鹿沼に関わりたい、とのご回答をいただけた。



●その他の成果

- まちの駅の視察ツアー開催時には、地域外の民間の関係者同士で、プライベートな約束をしている光景を見ることができた。
- 全国のまちの駅関係者に本事業の周知を行ったことで、他の団体同士が同様の取組を行う話や、個別に本事業に対する問合せを頂いている。
- 本事業をモデルケースに、本格的に全国のまちの駅に対し制度展開ができる可能性を感じている。

7.課題への対応

●事業で直面した課題とその対応策･解決方法

＜「関係人口」「まちの駅姉妹締結」についての理解不足＞

- 市内外のまちの駅関係者に「関係人口」や「まちの駅姉妹締結」の考え方を十分に理解していただくことが困難であった。
- 関係人口の手前の「関心人口」を増やし、その中から関係人口を獲得していく、という考え方を示した。

＜台風被災による事業実施の遅れ＞

- 台風19号により大きな被害を受けたことで、事業実施が大幅に遅れ、「いちご市民プロジェクト」において、数の目標達成が困難な状況であった。
- 自然災害による困難な状況となってしまったため、制度の確立と、スモールスタートとなったがが、強いファン（質）の「いちご市民（関係人口）」の確保にシフトした。

●今後の課題と対応方針

- 「姉妹まちの駅プロジェクト」は民間中心の交流事業のスタートアップであるが、行政からの資金面、技術面でのサポートも必要である。継続性を担保するために、まちの駅関係者の活動に対する熱量を維持・増加させつつ、行政の負担（特に経済的負担）を段階的に減らしていくような支援を行なっていく。

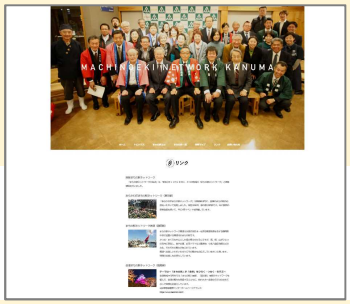
- 「いちご市民プロジェクト」については、鹿沼市のシティプロモーション施策とも絡めて、「いちご市」の枠組みを明確化し、市内外に広く広報することで、継続的にいちご市民を獲得するとともに、市内でのいちご市民の受け入れ体制をしっかりと整えていく。

8.将来への展望

●来年度以降の関係人口とのかかわり方

- 姉妹提携をした各地域のまちの駅と、情報交流（お互いの地域の情報を提供し合う）、物産交流（イベントへの出展や食材等の提供など）や災害時の相互扶助、観光交流など、具体的な活動を検討し、実施していく。
- 本市では、まちの駅のパンフレットや、本事業を活用した専用ポータルサイトなどで３地域の紹介PRを行うとともに、観光交流拠点施設では3地域の展示コーナーを設けた。
- 再度「鹿沼ファン」の方々や東京圏でのイベント等で「いちご市民」について周知することでより多くのいちご市民を獲得するとともに、いちご市民に活躍していただける受け皿を数多く用意し、よそ者視点で鹿沼の活性化に貢献していただく。

ポータルサイトの１ページ▶



姉妹締結の展示▶



●「関係人口」施策の展望

- これまで、「『まちの駅』は見えない線路で繋がっている」という説明をしてきたが、姉妹締結によって「見える化」を試行した。
- 今後、民間同士の交流事業として、自由な発想と行動力で、まちの駅らしい取組を展開し、関係人口との関係のより深い醸成と、新たな関係人口の創出拡大につなげたい。

- いちご市民プロジェクトはスモールスタートとなってしまったが、本市のシティプロモーション施策およびまちづくり施策の柱として、次年度以降、発展的、継続的に育てていく。



いちご市民カード裏面（いちご市民憲章）